

鉄人が認めたウエットスーツ素材 山本化学工業 ココが光る

2020/9/7 18:10 | 日本経済新聞 電子版



極薄に加工したゴム生地がウエットスーツやマスクカバーの素材となる（大阪市）

山本化学工業（大阪市）はトライアスロン用のウエットスーツ素材で世界シェア9割以上を握る。窒素ガスの入った細かな気泡を多く含み浮力や保温力に優れる「超オーバースペックの素材」（山本富造社長）。「速く泳げる」と選手らから支持を集める。

シェア拡大のきっかけは1995年に開発した「スーパー・コンポジット・スキン」。魚のヌルヌル感をヒントに表面を特殊加工したゴム素材で、トライアスロンの大会で新記録につながり、世界に「ヤマモト」の名が広がった。同社は他に医療用ストッキングの素材なども手掛けるが、売り上げの半分近くをウエットスーツ素材が占める。

2008年の北京五輪の際には英スピード社の競泳水着に対抗して「バイオラバースイム」を発売、09年の世界選手権で有力選手が着用した。「たこ焼きラバー」の愛称も付いたが、その後の規定変更で国際大会などでの使用は不可に。20年2月には改めて糸

山本化学工業（大阪市）	
創業年	1964年
代表者	山本富造社長
売上高	72億円(2020年2月期)
従業員	70名

を1本ずつコーティングした繊維の新水着素材を開発するなど、高機能な水着素材の開発に挑み続ける。

新商品の開発にも余念がない。新型コロナウイルスの感染が拡大した4月に発売した極薄ゴムと繊維を素材としたマスクカバー「ビオラシリーズ」は、高速水着で培ったゴムの加工技術を生かした密着性が売り物だ。「包まれているような」（山本社長）装着感があり、8月末時点で国内外合わせて35万枚を販売した。山本社長と数人の社員という少人数の体制で40日程度で商品化にまでにこぎつけた。

他社と協業して新商品の開発や販路開拓につなげる戦略も描く。実用新案権など知的財産を開放し、高機能素材を広める狙いだ。すでに繊維商社の豊島（名古屋市）と高規格の「N95」に匹敵するマスクの開発に取りかかっているという。

山本社長の祖父は前身の企業で脱脂粉乳を原料とした安価なプラスチック製のボタン、父は消しゴム付き鉛筆を開発した「発明家」の家系。コロナ禍で社会のニーズがこれまでと大きく変わりつつある中、他社も巻き込みながら次の新商品の開発につなげられるか。「アイデア勝負」の真価が問われる。

（斎藤毬子）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.